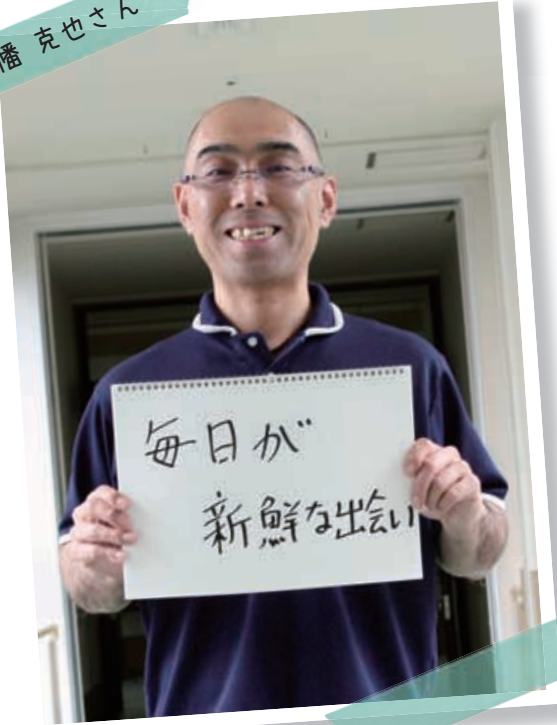


ふくじきりり人。

題字：江幡 克也

江幡 克也さん



小坏 輝明さん



え ばた かつ や
江幡 克也さん
こ あくつ てる あき
小坏 輝明さん

介護老人保健施設 つまさと（水戸市）

水戸市の介護老人保健施設『つまさと』で働く江幡克也さんと小坏輝明さん。二人とも自分が入院した際に多くの方に支えられた経験がいまの仕事につながったといいます。そんな福祉の現場でキラリと輝く二人にお話を伺いました。

福祉の道に進むきっかけ

「振り返れば、小学生のときに交通事故で入院生活を強いられ、『4ヵ月間人の手を借りなければ生活ができない状態』となりましたが、看護師さんに支えられた経験を今でも鮮明に覚えています。また、高校生のときに障がい者スポーツのボランティアに参加したことがきっかけで『誰かの役に立つ仕事』があると実感しました。この2つが結びつき、福祉の道に進もうと思いました」（江幡さん）

「工場に勤務していたときに、指を怪我してしまい一ヶ月間入院していた際に、看護師さんやヘルパーさんに細かい心配りで私をサポートしてもらい、福祉や医療の仕事に感銘を受けたのが今の職を選んだきっかけです」（小坏さん）

現場でしかわからない気付き

高い志を持ち、福祉の道に進んだ二人ですが、いざ「現場」に入るとさまざまな気付きがあったようです。

「福祉の専門学校を卒業後、現在の職に就きましたが、現場では教科書だけでは学ぶことが出来ない経験をしましたね。もちろん、論理やベースとなる基礎を学ぶことは必要だと思いますが、現場では利用者一人ひとりに適した支援の方法が求められていると思います。決まりきったやり方などなく、10人いれば十人十色の対応や接し方があると実感しました」（江幡さん）

自分の経験を福祉の仕事に活かしたい 福祉とは笑顔になれる仕事!

「私は専門学校を出ていないので、実習経験がないまま現場に入りましたが、テキストには書いていないさまざまな介助のやり方もあると気付かされました。ときには、『どうしてうまくいかないんだろう…』とひとりで悩んだりもしましたが、そんなときは職場の上司に相談してよりよい介助の仕方を模索していましたね」(小坏さん)

利用者さんの些細な変化に気付く大切さ

一般にどんな職業でも現場で経験してこそ感じる悩みや驚きがあるといわれていますが、それ以上に二人は「仕事のやりがい」を感じているそうです。

「福祉は『毎日笑顔になれる』仕事だと思います。人間だれでも明日どうなるかはわかりません。だからこそ、一日一日に集中して、いま自分ができていることを精いっぱいやり遂げ、昨日こうしておけばよかったな、などの後悔を生まないためにも一人ひとりの利用者に向き合っています。そうすることで、多くの会話を通して些細な変化にも気付くことができ、利用者と職員の間には自然と笑顔が生まれるのではないのでしょうか。この仕事に就く前の上司に『江幡君がいるだけでみんなが笑顔になれる。そんな介護士になりなさい』と言われたことがあり、その言葉を胸に刻み日々仕事をしています。ときには、利用者にとんち話や落語のような小噺、昔話をするときもありますね(笑)」(江幡さん)

「前の職場は物をつくる仕事。いまの仕事は喜怒哀楽を利用者と共有することで、感謝の言葉をいただいたり、昨日できなかったことが今日できたりなど、利用者のちょっとした変化が見られたときに、仕事のモチベーションもあがり、「この仕事を選んでよかった!」と自然に笑顔になりますね。そのため、一人ひとりと向かい、何か一つでも改善できることはないかと考えています」(小坏さん)

福祉の仕事に進むか悩んでいる方へ

最後にこれから福祉の道に進もうと考えている方へ背中を押すメッセージをいただきました。

「福祉の仕事は『習うより慣れる』だと思います。基礎はもちろん大切ですが、現場では、どうしても論理よりも直感力が求められるときがあります。平たんな道ばかりではなく、ときにはデコボコ道に遭

遇するときもあるのです。そんなときにその場の判断力で瞬時に切り替えができる能力が必要だと思いますね。そのためにもまずは現場でさまざまな経験を積んでほしいですね」(江幡さん)

「福祉の仕事は、まずは現場に来て、経験してもらうことが第一ではないでしょうか。当然、嫌なことや良いことなどのさまざまな気付きがあると思いますが、現場でしかわからないことがあります。そして利用者と接すれば接するほど、お互いのことがわかりますし、信頼関係も生まれます。決してひとりで支援するのではなく、職員と協力しながら、よりよい支援を目指すのが大切。スポーツでいえば野球のようなチームプレーも求められ、いろいろな人と連携をとることでより良い支援ができるのではないのでしょうか」(小坏さん)

仕事のやりがいや充実感を感じながら、にこやかな笑顔で日々利用者と接している江幡さんと小坏さん。福祉のプロフェッショナルとして「一等星」のようにきらりと輝いていました。



毎日笑顔になれることが魅力です。(江幡さん)



利用者一人ひとりと向き合います。(小坏さん)